

時間外学習を増やして授業効率を上げよう

簡単な手法で時間外学習を促す！

■高知大学総合教育センター・大学教育創造部門

単位の実質化にむけて

授業で“2単位”を得るためには、「90時間”の学習を伴う”ことが基準となっています。これを単位の实質化と言います。履修制限の設定は、これを元に算出された単位数が元となって決められています。この観点からも、学生の学習成果を充分なものにするためには、時間外学習を効果的に用いることが必要となります。今回はそのための工夫についてご紹介します。

1. シラバスを工夫して書こう！

●具体的な学習目標を設定しよう。

実現可能な目標設定をしていますか？ 観察可能な目標を書いていますか？ 目標は成績評価に直結しています。何が何処までできれば目標を達成したとみなされるのか、分かりやすく具体的に書くことによって受講生の自習を促すこととなります。

●評価のスケジュールを明記しよう。

評価のスケジュールを具体的に書くことも重要です。いつ行うのか、どの様な方法で行うのか、そのとき評価される内容は何かなど必要な情報を予め明記しましょう。

レポートも同様です。どの時点でレポートを課題として課すのか、その内容、評価の観点などを書いておくと、時間外学習の見通しも立てやすくなります。

2. 小テストを効果的に使おう！

●予習を義務付けよう。

授業スケジュールを予め示し、次の時間に用いる資料を事前に配布するなどした上で、それらの予習

確認を行う小テストを定期的に行いましょう。

●理解促進テスト法を活用しよう。

授業開始時に予習確認テストを実施しましょう。遅刻防止にも繋がります。小テストの結果は成績評価に加味することを予め通知しましょう。予習確認テスト終了後、同じ問題をグループで解答させるのも効果的です。簡単な問題でもグループで議論することにより、より整理して説明できる・より記憶に残るなどの効果があります。また、予習範囲について議論をすることによって、グループワークへの参加や貢献が予習の動機付けになる効果もあります。

3. ミニツッペーパーを効果的に使おう！

●授業終了時の10分を効果的に使いましょ。

ミニツッペーパーには単なる感想ではなく、授業中に扱った話題について具体的な質問をします。また、個人の解答の後、グループでの共有の時間を取るのも効果的です。

※出席点の考え方

シラバスに「出席点」なるものを設定している教員がおられます。この出席点とは、どの様なときにもらえるのでしょうか。出席を取ったときだけ教室にいれば出席ですか？ 授業中ずっと私語をしても出席ですか？ 授業中ずっと携帯メールやネットサーフィンをしても出席ですか？ このような学生と、最初から教室にいてノートを取り、最後まで真剣に話を聞いている学生と同じ「出席点」ですか？ まじめに授業を受けている学生はこのような他人のずるい行為が気になります。さらにこれを許している教員の態度にも不満を感じており、結局やる気をなくしてしまいます。関心を持ってきてくれ

た学生のやる気をそぐような仕組みにはならない方がよいでしょう。

シラバスに「出席点」あるいはこれに類することを書いた以上はどのような状態を出席とみなすのかを、観察可能な具体的行動として目標に定め、そこに到達しているかを厳格に評価する必要があります。

実際にそのような目標を定めて観察結果をこまめに記録するよりも、もっと観察しやすい行動、すなわち「出席点」ではなく、「参加点」のようなものに変えた方が評価も簡単で公平感・公正感も保て、厳格な成績評価が可能になります。たとえば「積極的な発言1回につき1点(ただし上限20点)」などです。所属・氏名を名乗らせることでチェックが容易になります。

4. ルーブリック評価シートを付けよう！

●レポート課題等を課すとき、評価の観点を明示しよう。

レポート課題を課すとき、内容だけを提示している方がほとんどだと思います。事前に評価の観点を示しましょう。レポートの評価基準を示すことによって、作成前に受講生自らより高得点がとれるためのレポートの書き方、すなわち良いレポートの書き方が分かり、ある一定レベル以上のレポートを作成することができ、教育効果を高めることができます。

学生に求めるレポートの形式や提出方法は、教員によって異なるようです。多くの学生は自分の属する学科の授業でレポート提出する機会が多いと思われるので、所属毎にある程度の約束事が身につくようです。ところが、共通教育科目での受講生は所属が様々で文系・理系学生が混在していることが多いはずで、教員が当たり前と思っていることも、学生にとっては全く未経験である場合もあります。レポートの形式や提出方法、提出場所なども明示しましょう。

●フィードバックは重要です。

レポート、テストは採点后返却しましょう。またレポートを返却する際は、フィードバックを行うこ

とが継続的な学習のために効果的です。単に点数だけを付けて返すのではなく、何処がどの様に優れているのか、あるいは基準に達していないのか、分かるようにコメントを書いてあげると本人のためになります。

「レポートが再提出になったんだけど、何処がどう悪いかは教えてくれない」などと言う学生のぼやきを良く聞きます。“必修”の縛りがなければ学習意欲が続かず、あきらめる方を選ぶでしょう。最近では必修であっても簡単にあきらめてしまう学生もいます。それでは教育効果が上がりません。

評価の基準を予め表にして提示して、それに赤丸を入れて返せば一目瞭然です。ルーブリック評価シートの作成は、採点の際にその基準を明確にできるため、レポートの採点が公平になる効果があります。また赤丸を入れた評価シートをレポートに付けて返すことにより、フィードバックの簡略化も可能です。受講生は、自分のレポートがどういう点で何処まで到達していたのかが明確に分かります。このように教員・学生双方に利点があります。

5. グループワークで時間外学習を！

●所属・性別・志向性が異なるメンバーでグループをつくろう。

グループで取り組む仕組みを取り入れましょう。授業開始時に4～5名のグループをつくりましょう。所属・性別の異なる学生が入れ混じった方が効果的です。受講者の「好み」で分けられないことが重要です。たとえば取り組むべき課題をあらかじめ示し、課題ごとに希望者を募って・・・とやると、結果的に似たような学生が集まってしまいます。このことがグループ間の能力差に繋がる場合もあります。

事前に取り組むべき課題があったとしても、それとは無関係にまずグループを決めて、何をグループ課題とするかはグループ内の議論で合意形成するように指示しましょう。

予め人間関係のあるグループでは、合意形成の方

法が既に決まっていることが多いようです。また参加意識の薄い学生は、熱心な学生におまかせしてしまい、ほとんどのことをリーダー1名がやってしまうことになり、グループワークの教育効果がまったく得られません。所属や性別を混ぜることで、グループ内に初対面の関係にあるメンバーが必ずいる状況を作ります。初対面のメンバーがいると、議論による合意形成が必要になり、グループワークを活性化するのに効果的です。

●グループ課題で参加意識・貢献意識を高めよう。

グループで取り組む課題を授業に取り入れましょう。毎回の授業で、レクチャーを10分程度終えたらすぐに課題を出し、グループディスカッションをさせ、解答させます。レクチャー・グループワーク・発表の全体を20～30分程度で繰り返すと受講生に参加意識が芽生え、授業にも集中するようになり、グループワークへの貢献に喜びを感じるようになります。

●グループ課題に時間外学習を取り入れる。

また、グループワークの課題が時間外学習をしなければ解決しないような仕組みを取り入れましょう。事前に渡した資料に目を通しておかなければ、授業中のグループワークに参加できない仕組み（ジグソー etc.）、予習範囲が出題範囲となるテストを行う仕組み（TBL=チーム基盤学習→Tips 5 参照）、時間外に調査等が必要な課題を課す（PBL=課題またはプロジェクト基盤学習）など、様々あります。自分の授業方法や内容にあった手法を探して工夫しましょう。

6. プレゼンテーションの準備も時間外学習で！

●人前での発表がプレッシャーに。

最近の学生にとって、人前で間違ふことは恐怖のようです。そのため、授業中に課題発表の時間を設けると予習の動機付けになり、時間外学習がその直前だけ増える効果があります。

●一過性にならない工夫が必要。

残念ながらそれでも必要最小限の労力で済ませようとするので、プレゼン資料と発表原稿が直前にできあがります。従って発表の本番には発表原稿を持って望み、聴衆の反応を気にもとめずただひたすら読み上げます。これではプレゼンテーションもうまくならないし、課題をやった成果も時間とともになくなってしまいます。

そうならないため、工夫が必要です。たとえば、カンペは禁止しましょう。良いプレゼンの評価の観点を示して、受講生同士で評価させましょう。また、プレゼンテーションの内容について、グループメンバーが個別にフィードバックを受ける仕組み、ZIG-ZAGやワールド・カフェを同時に行いましょう。このような工夫によってグループ間の競争が生じる効果、ポジティブ・フィードバックが得られる効果、具体的な指摘やアドバイスが得られる効果、個人が責任を果たす効果が得られ、学習意欲の向上につながります。

用語解説

【ルブリック評価】

評価項目を縦に並べ、それぞれの評価項目の横に60点から100点までを3から5段階程度に分け、項目毎に観察可能な具体的・典型的な状態についての記述を並べてマトリクスを作ります。評価の際は観察された行動や記述等がマトリクスのどの目標をクリアしているかを判断して赤丸を付けていきます。こうすることで、受講者の行動が、あるいは作成したレポートがどの評価項目についてはどの段階まで目標達成できているかを視覚化することができます。

【ジグソー】

ある事柄について集められた資料を断片に分け、グループの各メンバーに各断片を渡します。この時点でメンバー一人一人は断片的な情報しか持っていません。各自与えられた資料についてよく学習してき

レポート評価のルーブリックの例

	A	B	C
事実と意見を区別して論述できる。	事実と意見が区別されている。	事実と意見が区別されていない部分がある。	事実と意見が区別されていないことが多い。
参考文献を適切に表記することができる。	参考文献が三つ以上挙げられており、表記方法も適切である。	参考文献が三つ以上挙げられていない。もしくは表記方法が不適切である。	参考文献が三つ以上挙げられておらず、表記も不適切である。

まず、個別学習の成果をグループで持ち寄り、元の課題を仕上げてゆきます。ちょうどピースを持ち寄ってジグソーパズルを仕上げるように全体像を組み立てます。

【ZIGZAG】

メンバー数5人のチームが5つある場合、5人のメンバーそれぞれに1番から5番の通し番号を付けます。各チームから、1番の人だけ集まって新しいグループ1を作ります。同様にグループ2からグループ5まで作ります。それぞれの新グループ内で、メンバーはそれぞれの属するチームの報告を行い、コメントやアイデアをもらいます。メンバー全員が報告を終えたら元のチームに戻り、それぞれが受けたコメントを自分のチームにフィードバックします。

チーム数とメンバー数が近いとき、実施しやすい方法です。

【ワールド・カフェ】

各グループを「国」に見立て、ホスト1名を決めます。ホストは国に残ってゲストを受け入れます。ホスト以外のメンバーは一人で世界旅行に出かけます。同じ国から出てきた旅行者は、原則同じ国に立ち寄りません。各国はゲストの受入数を制限（メンバー数と同じ）します。このようにしてある国のメンバーは自国に一人と、それぞれ異なった他の国に別れます。

まずホストから、自国のアピール（中間報告）を聞きます。ゲストはこれに対してコメントを残します。いくつかの国を旅行（1～数ヶ国）した後に自国に帰って他国で得た情報を報告します。この新グループでのワークの進め方は、ZIGZAGと同じようにしても良いでしょう。メンバー数に対してグループ数が多いとき、有効に使えます。

連絡先：学務課総務グループ

gm04@kochi-u.ac.jp